

小学校低学年を対象にした
教育普及プログラムで集中力を持続させる工夫について

○古郡 翔也 , 矢作 薫里 , 佐々木 美波

「夏休み宿題教室 ズーラシアアドベンチャー」は、子供たちの動物や動物園への興味関心を深めるプログラムである。小学校1年生～3年生を対象とした2時間半のプログラムで、夏休みの自由研究に活用できる内容にまとめている。令和5年度のテーマは「クマ」とし、和名にクマが付く動物を観察しながらクマ科の特徴を学べるプログラムを企画した。過去のプログラムでは、長時間の座学や歩きながらのワークシートへの書き込みなど、難易度の高い作業があったため、集中力を保つことが難しい子どもがいた。そこで、このプログラムでは、集中力を切らさない3つの工夫を取り入れて行った。

1つ目は「目標の設定」である。プログラムのゴールをあらかじめ伝えることで、プログラムに目標が生まれる。このプログラムでは、最後にミニテストを行い、全問正解すると「クマスター」の称号がもらえるという構成とした。これにより、楽しみながら目標に向かってプログラムに参加できた。2つ目は「体を動かす」である。動物の観察をした後、クイズによる振り返りを行った。その際、あらかじめ決めたジェスチャーによる答え合わせをすることで、飽きさせない工夫をした。3つ目は「こまめな休憩」である。子どもの集中力は10分程度と言われ、子どもの勉強法でも細かく休憩を取り入れると集中力が高まると考えられている。また、プログラムの実施は猛暑日が予想されたため、熱中症対策も兼ねて3回の休憩を組み込んだ。

実施した結果、過去のプログラムに参加した子どもたちに比べ、プログラムに集中する人数や時間が増えた。令和6年度のプログラムでは、引き続きこれらの工夫を取り入れ、さらに効果的な実施を試みたい。